

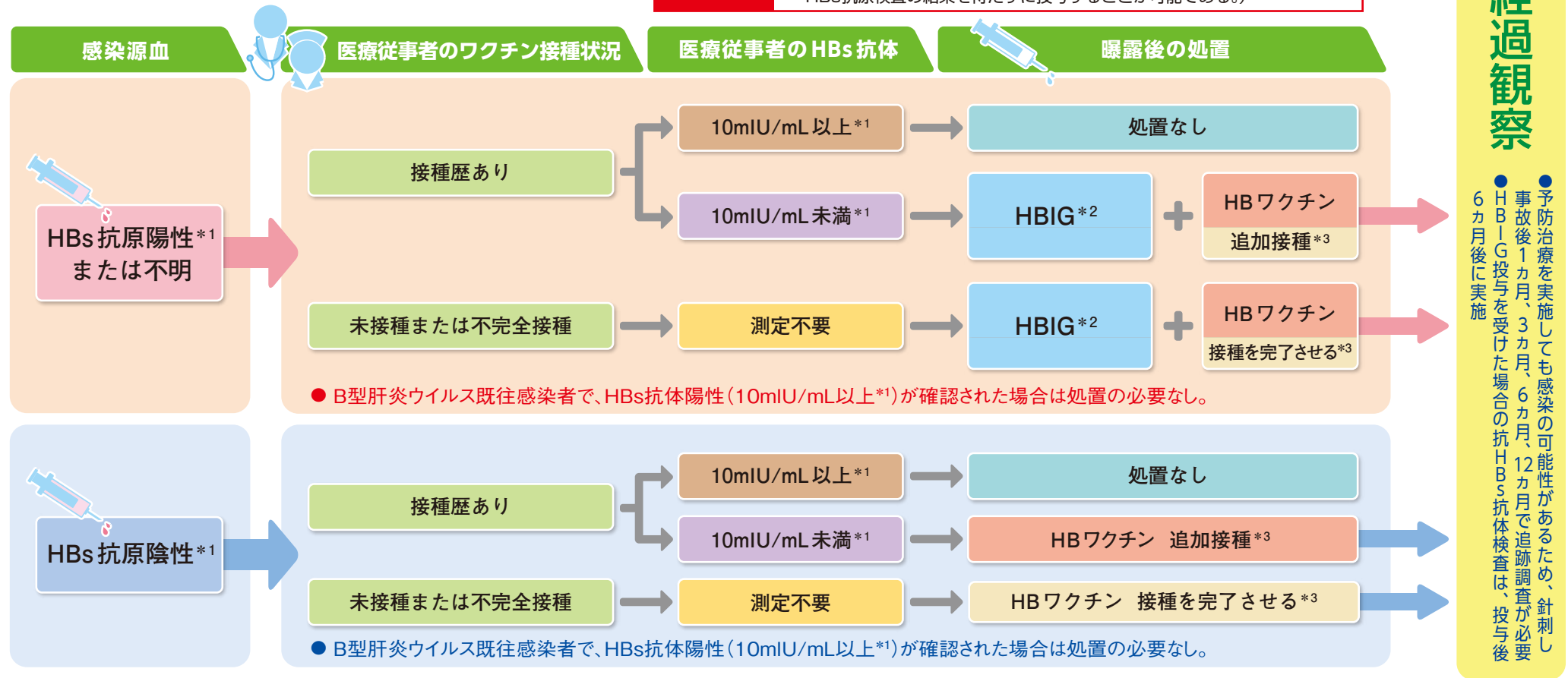
医療従事者の針刺し事故後のB型肝炎感染予防

【監修】信州大学名誉教授 田中 榮司 先生

抗HBs人免疫グロブリン(HBIG)とHBワクチンの組み合わせ使用

HBIG禁忌

1. 本剤の成分に対しショックの既往歴のある患者
2. HBs抗原陽性者(ただし、新生児に投与する場合で、やむを得ない場合には、HBs抗原検査の結果を待たずに投与することが可能である。)

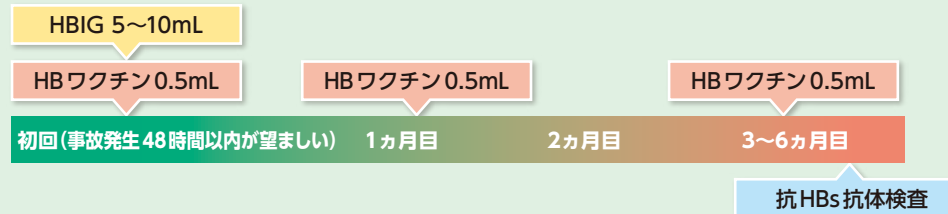


*1 感染源血及び医療従事者のHBs抗原・抗体検査は、事故発生後なるべく早く確認し、感染予防を行う(48時間以内が望ましい)。

*2 HBIGの使用にあたっては、電子添文をご覧ください。

*3 HBワクチンを接種する際は電子添文をご覧ください。またHBワクチン接種に関する保険給付の取り扱いにはご注意ください。CDC, MMWR Recommendations and Reports, 67(No.RR-1), 1-31. 2018参照の上、作図

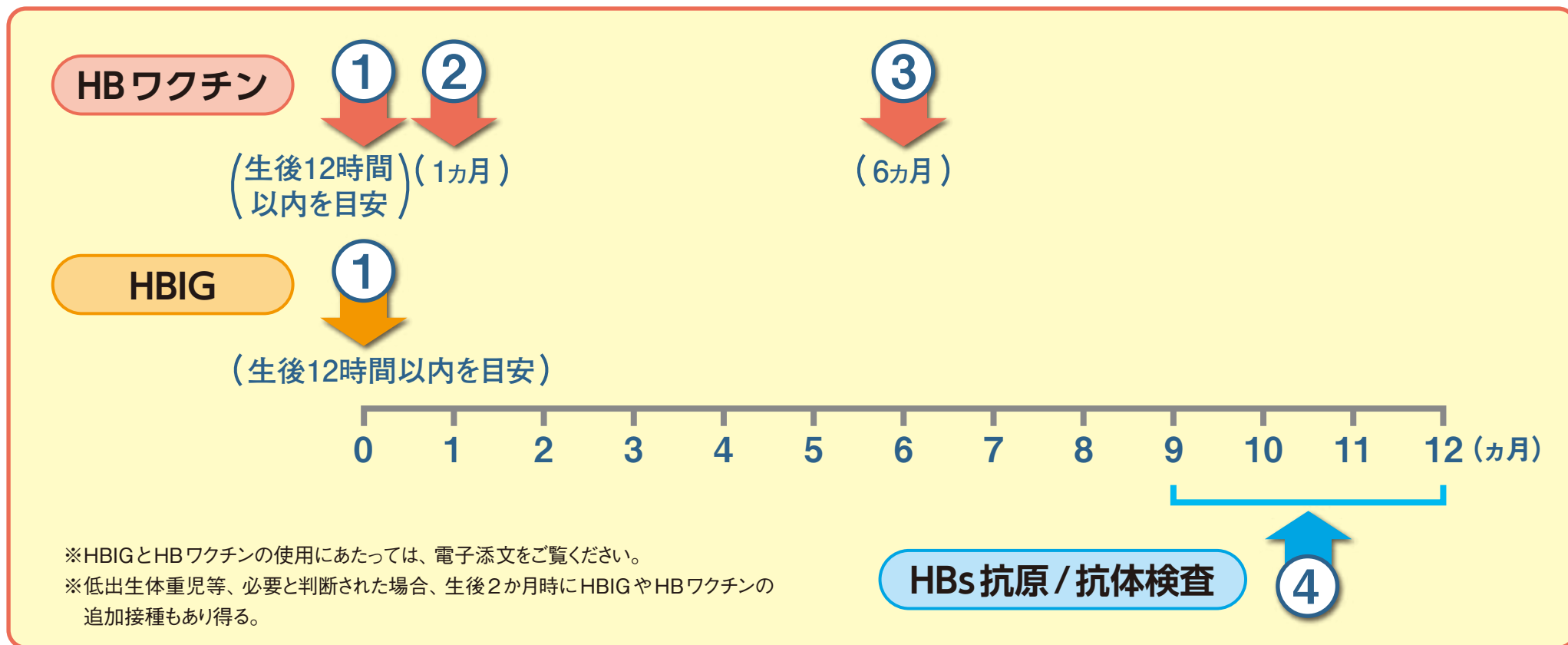
● 針刺し事故後の抗HBs人免疫グロブリン(HBIG)とHBワクチン投与スケジュール例



B型肝炎ウイルス母子感染予防の管理方法

【監修】日本大学医学部 小児科学分野
主任教授 森岡 一朗 先生

HBs抗原陽性の母親から出生した児に対する感染予防処置



HBs抗原陽性の母親から出生した児に対し、原則として以下の感染予防処置を行う。

- ① 出生直後(12時間以内が望ましいが、もし遅くなった場合も生後できる限り早期に行う)、HBIG(抗HBs人免疫グロブリン筋注用)1 mL(200単位)を2ヵ所に分けて筋肉注射し、B型肝炎ワクチン(HB ワクチン)0.25 mLを皮下注射する。
- ② 生後1ヵ月 HB ワクチン0.25 mLを皮下注射する。
- ③ 生後6ヵ月 HB ワクチン0.25 mLを皮下注射する。
- ④ 生後9～12ヵ月を目安にHBs抗原とHBs抗体検査を実施する。

HBs抗原陰性かつHBs抗体 ≥ 10 mIU/mL …… 予防処置終了(予防成功と判断)

HBs抗原陰性かつHBs抗体 < 10 mIU/mL …… HB ワクチン追加接種

HBs抗原陽性 …… 専門医療機関への紹介(B型肝炎ウイルス感染を精査)

日本小児科学会の「B型肝炎ウイルス母子感染予防のための新しい指針」(2013)に基づくスケジュールより作図

0歳児が対象のB型肝炎ワクチンの定期接種とは異なります



日本小児科学会が推奨する予防接種受けジュールより作図